

水泳部男子新入部員の全裸自己紹介

新緑が目眩しい季節。某高校のプールサイドは活気に満ち溢れていた。今日は水泳部の新入生歓迎会。女子部員たちの期待と興奮が入り混じる中、男子新入部員たちは緊張した面持ちで集まっていた。

「さて、恒例の新入生男子の全裸自己紹介といこうか！」

にこやかにそう言うのは、水泳部の部長である上村葵だった。

「今年はどんな逸材が集まったかな？楽しみだ」

女子部員たちは目を輝かせながら、ざわめき合っている。一年生の女子部員たちは、先輩たちの余裕ぶりに内心ドキドキしてい

た。中には、緊張のあまりそわそわしている者もいる。先輩たちはというと、待ち焦がれていたというように、にやにやしながら男子部員たちを見つめていた。特に上級生の女子部員たちは、毎年この自己紹介を楽しみにしているようだった。

「最初は、うちのエース候補、一条拓真くん！」

上村の言葉に、一条は緊張した面持ちで前に出た。精悍な顔つきで、体格も水泳選手として申し分ない。女子部員たちの期待も高まる。

「一条拓真です。水泳は中学からやってました。得意なのはクロールです。よろしくお願いします！」

そう言うと、一条は深呼吸をして、水着の淵を掴みをゆっくりと下ろし始めた。その手は若干震えていた。緊張しているのがありあ

りとわかる。一年生女子部員たちは固唾をのんで見守っている。

「本当に脱ぐんだ…」

一年生の女子部員たちは、緊張で顔が赤くなっている。しかし、先輩部員たちは慣れた様子で微笑んでいる。中には、待ちきれないといった表情で身を乗り出す者もいた。特に上級生の女子部員たちは、にやにやしながら一条の動きを見つめている。

「一条くん、すごい！」

「さすがエース候補！」

そんな声が飛び交う中、一条は覚悟を決めた。観念したように目を閉じると、一気に水着を脱ぎ捨てた。

「きゃー！」

一年生女子部員たちの悲鳴にも似た歓声が上がる。一条のおちんちんは、堂々とした太さと長さを誇っていた。先端は少し右に

曲がっており、力強さを感じさせる。根元は遅しく、今にも動き出しそうだった。亀頭は大きく、まるで熟したイチジクのようなだった。

赤面しながらも堂々と自己紹介を終えた一条に、女子部員たちは釘付けだった。

「一条くん、貫禄勝ちね」

「あれは期待しちゃうわ」

そんな声が聞こえる中、一年生女子部員たちは、恥ずかしさ半分、興味津々といった様子で一条のおちんちんに見入っていた。中には、顔を赤らめながらも目を逸らせない者もいた。